

赤クローバ

ハミドリの調査成績

農林省岩手種畜牧場 河野涉

一 試験の目的

現在、我が国の牧草地へまかれる牧草種子の大半は、海外からの輸入に頼っておりますが、輸入種子の品種、系統について、我が国における栽培・採種の適応性を検定し優良系統を選定して、その増殖普及に努めるべく、畜産局の設計に基づいて昭和三十二年度より継続調査を行なっております。

二 調査実施の概要

(1) 調査実施場所

農林省岩手種畜牧場試験圃（盛岡市下厨川字穴口）にて調査を実施し、ここは標高一八〇m、土性は岩手火山灰質土壤、植土壤であり、火山灰土壤に共通する性質として磷酸吸収系數は一、五〇〇P・P・Mと比較的高く又、pHも四・七と酸性が強い。

(2) 調査品種又は系統名

今回の第三次調査（刈取三年目）に供試した赤クローバの品種・系統は第一表の通

(3) 施肥量

栽培調査における施肥設計の概要を示しますと第二表のように行ないました。

第1表 赤クローバの調査品種・系統名

調査No.	品種又は系統名	産地又は導入先	輸入年次
1	モントゴメリー	ニュージーランド	昭和37年
2	カウグラス	〃	37
3	レークランド	アメリカ合衆国	38
4	ドライード	カナダ	39
5	オッタワ	〃	39
6	ハミドリ	雪印種苗K.K.	39

1区面積および区制：1区 6 m² γ=4 亂塊法

播種年月日：昭和39年5月13日

播種量：900 g/10 a

播種法：畦幅40 cm 条播

第2表 試験区の施肥量 (kg/10 a)

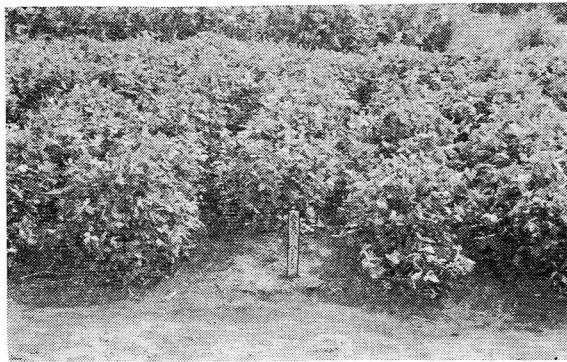
肥料名	基肥	第1年		第2年		3年目追肥		
		目追肥	目追肥	早春	1番刈後	計		
堆肥	1,500	—	—	—	—	—		
炭素	200	—	—	—	—	—		
尿素	5	—	3	3	2	5		
熔成磷肥	40	10	40	20	20	40		
塩化カリ	10	5	20	10	10	20		

第3表 赤クローバの生育・特性調査

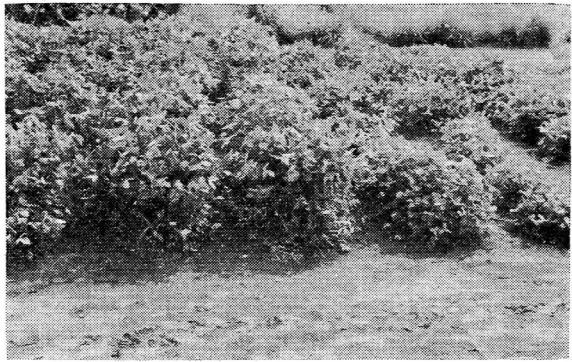
調査No.	品種又は系統名	越冬	萌芽の早晩	葉色	開花始(月日)	刈取後再生	病害			
							良否	早	晚	菌核病
1	モントゴメリー	中	中	淡	6. 4	否	少	少	少	少
2	カウグラス	中	早	中	5. 31	中	少	少	少	少
3	レークランド	良	中	濃	5. 30	中	微	少	少	少
4	ドライード	中	中	中	5. 30	中	少	中	少	少
5	オッタワ	早	早	中	5. 30	良	微	少	少	少
6	ハミドリ	良	早	やや濃	6. 2	良	微	少	少	少

いく分高目であり、その為初期生育は順調ではあつたが、六月上旬より低温となり、その他には殆んど発生がみられなかつた。

萌芽始は四月上旬で、早春の平均気温は全般的に一番刈後の再生は劣つた。



左: ハミドリ 右: オッタワ



左: 赤クローバ・オッタワ 右: モントゴメリー

第4表 生草収量 (kg/a)

調査No.	品種又は系統名	1番刈 (6月 (14日)	2番刈 (8月 (9日)	3番刈 (10月 (25日)	合計	指数
1	モントゴメリー	209.0	11.8	—	220.8	46
2	カウグラス	110.4	36.9	—	147.3	31
3	レークランド	216.3	92.1	—	308.4	65
4	ドライード	183.5	57.5	—	241.0	51
5	オッタワ	213.2	114.1	11.0	338.3	71
6	ハミドリ	318.1	134.9	23.0	476.0	100

註: モントゴメリーの2番刈は10月25日

第5表 乾物収量 (kg/a)

調査No.	品種又は系統名	乾物収量				
		1番刈	2番刈	3番刈	合計	指数
1	モントゴメリー	33.1	2.7	—	35.8	41
2	カウグラス	19.3	6.5	—	25.8	30
3	レークランド	35.0	16.3	—	51.3	59
4	ドライード	28.5	10.2	—	38.7	45
5	オッタワ	34.0	20.2	2.5	56.7	65
6	ハミドリ	57.4	23.9	5.3	86.6	100

第6表 刈取期

刈取時	第1年	第2年	第3年
1番刈	8月12日	6月16日	6月14日
2番刈	10月14日	8月18日	8月9日
3番刈	—	10月22日	10月25日

註: モントゴメリーの1番草刈取月日

{第1年目 8月26日 その他は上表の通り
第2年目 6月23日}

刈取は再生状況に応じて実施したが、オッタワ、ハミドリの二品種は三回刈、他の品種は二回刈しかできなかった。病害としては六月中旬に汚斑病、輪紋病、葉腐病がやや発生したが、品種間に大きな差は認められず、また虫害についても、特に発生はみられなかった。生草収量を第四表、乾物収量を第五表に掲げます。

三 刈取三年目試験の考察

刈取三年目の昭和四十二年は降雨量も少なく、したがつて雪腐病の発生も前年より

少なかつた。

早春は比較的気温も高目に経過し、初期生育は順調であったが、六月上旬よりの低温、そして七月の長雨、寡照という異常天候が続いたため一部に葉腐病が発生し、総体的に一番刈後の再生はかなり悪かつた、

刈取は第六表の如く行なつたが、オッタワ、ハミドリは三回刈、他は二回刈より出来なかつた。生草収量を品種別にみると、前年に引続きハミドリが最も多収で、次いでオッタワ、レークランドが良く、カウグラスは最も低收であった。

生草収量を品種別にみると、前年に引きハミドリが最も多収で、次いでオッタワ、レークランドが良く、カウグラスは最も低收であった。

病害については、ドライードは比較的弱く、ハミドリ、オッタワ、モントゴメリーは強い傾向がみられた。

本調査に用いた赤クロバの六品種・系統の三ヵ年間の調査結果を第七表に示します。三ヵ年間の合計収量は第一図のように

四 三ヵ年間の総合結果

第7表 3ヶ年間の収量調査

(a 当年間収量 kg)

調査No.	品種又は系統名	生草収量					乾物収量				
		第1年	第2年	第3年	合計	指數	第1年	第2年	第3年	合計	指數
1	モントゴメリー	216	212	221	649	51	36.4	36.0	35.8	108.2	47
2	カウグラス	209	182	147	538	43	43.6	35.4	25.8	104.8	46
3	レークランド	258	226	308	792	63	48.5	44.3	51.3	144.1	63
4	ドーラード	247	150	241	638	51	47.2	29.0	38.7	114.9	50
5	オッタワ	260	238	338	836	66	48.2	46.9	56.7	151.8	67
6	ハミドリ	282	507	476	1,265	100	49.9	91.6	86.6	228.1	100

(1) 収量
各年ともハミドリ、オッタワ、レークランドの順に多収を示し、特にハミドリは二年目において実際に他品種の二倍以上の収量があり他品種とははつきり有意差がある。モントゴメリー、カウグラスは三年を通じ常に低収であったが、ドーラードは第二年目の菌核病、輪紋病により大きく減収し、三年目にはやや回復したが、総合的に低位に終わった。

ハミドリが断然高収を挙げているのがうかがわれます。

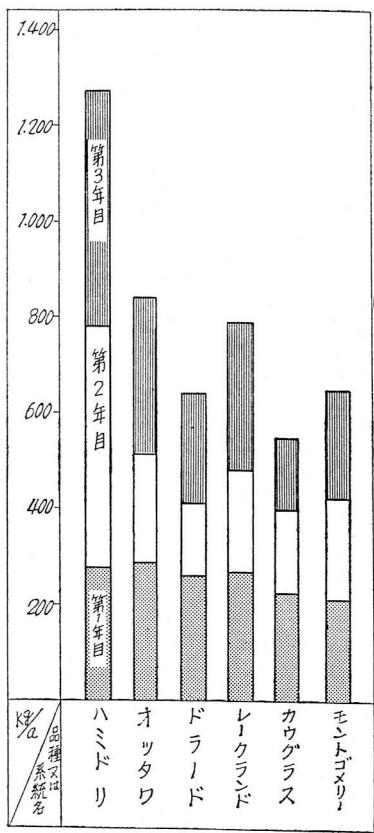
五 調査成績の総合考察



赤クローバの生産力検定試験（3年目）



O E C D登録品種となった赤クローバ・ハミドリの原々種圃場（北海道）



(2) 早晩性
開花期よりみた早晩生は年により多少差があったが、総体的にみて次の通りである。
早生種——ハミドリ、ドーラード
中生種——オッタワ、レークランド

(5) 剪取後の再生力

ハミドリ、オッタワは再生力強く、晚秋の刈取も可能であったが、カウグラス、ドーラードは前記品種に比較して再生力弱く、特にモントゴメリーは再生力が劣った。

(6) 総合判定

以上試験調査結果より、赤クローバ供試六品種中ハミドリは収量、再生力からみて他品種を大きく上回り有望と思われる。

（農林省岩手種畜牧場

種苗課長・技師）